



安野光雅『繪本 即興詩人』より「花祭りのジェンツァーノ」©空想工房 津和野町立安野光雅美術館所蔵

目次 ● 巻頭コラム「鷗外とアンデックス修道院—ある青春の一日—」美留町義雄(大東文化大学教授)／開催中の展覧会／カフェ便り／地域情報／次回展示のお知らせ 特別展「文して恋しく懐かしき君に一鷗外、『即興詩人』の10年—」／展示会場から／ボランティア活動ノート／コラム「異文化との出会いから—北海道・有島記念館」伊藤大介(有島記念館主任学芸員)／これからの催しもの／活動報告／編集後記

# 鷗外とアンデックス修道院

## ある青春の一日

美留町義雄（大東文化大学教授）

寒くて陰鬱な冬が終わり、四月を迎えると、ドイツでは急速に日差しが強まり、春というよりはいきなり初夏の陽気になる。すると人々は浮足立って戸外に出て、久しぶりの日光を享受する。鷗外は、まだ雪が降る頃にミュンヘンへやって来たが、彼も明るい陽光に誘われて、さかんに郊外の自然の中へ飛び出している。そんな春の行楽の中で、とりわけ印象深いのは、由緒あるアンデックス修道院への遠足である。ここに日記の一部を引用してみよう。

医学生徒九人とアンデックスに遊ぶ。午前六時家を出て、汽車に上りてスタルンベルヒに至る。地スタルンベルヒ湖に臨む。此より歩いてアンデックスに抵る。村を過ぐること四五。路傍耶穌像の像多し。村民加特力教を奉ずるに因るなり。行くこと三時間アンデックスの丘に達す。丘湖に臨む。アムメル湖と名づく。丘上寺院あり。住僧に請ひて什宝を見る。後院内の醸房に酌む。僧ヤアコップといふ者あり。醸酒管長たり。肥大にして遅鈍。家猪と鬃鬃たり。酒を行る者も亦皆緋衣。余覚えず絶倒す。余客と皆酔ふ。(…)生徒等皆狂歌す。興を尽して歸る。(明治十九年四月十八日)

礼するために多くの巡礼者が訪れていた。むろん鷗外たちもまた、修道僧に頼んでこの「什宝」を見ている。なかでも有名なのが、(聖なる三つの祭餅)であった。ホスチアとは、聖餐に使うパンの薄片である。ミサではそれをキリストの聖体に見立てて食す。アンデックスに宝蔵されたホスチアは、グレゴリウス一世とレオ九世という二人の大教主に由来するとされ、従来より多くのカトリック信者を引き付けていた。

修道院が誇る宝物には、ある有名な逸話がある。僧侶から案内を受けた鷗外一行は、必ずやこのエピソードを聞いたであろう。その話に曰く、修道院が建つ以前、この地にはアンデックス伯爵家の城があった。聖遺物は当時からこの城に受け継がれていたのだが、十三世紀に政争で家系が絶えて城が壊された際に、行方が知れなくなってしまう。それから百年以上たち、旧城の礼拝堂でミサが行われたとき、一匹の鼠が祭壇の床より出てきた。よく見ると鼠は聖遺物の切れ端をくわえていたという。そこで祭壇の下を掘り起こしてみると、ひとつの箱が埋められており、その中に先の聖宝が隠されていたのだ。

このような神がかった遺物の再発見により、聖地としてのアンデックスの評判と名声はことさらに高まった。それ以降、ますます多くの信者が、各国より徒歩でこの地を目指したのである。スタルンベルヒ湖で列車を降りた鷗外は、アンデックスに向かう際に、この巡礼の道筋を共にしたのであった。その途中ひょっとしたら、十字架を掲げ、祈りながら修道院を目指す巡礼者たちと出会ったかもしれない。浮き立つような遠足気分の中で、鷗外は、聖なる道程に漂う敬虔な気配をも察知したに違いない。

そして参詣の後、旅人たちの身体を癒したのが、アンデックス特製の修道院ビールだった。ドイツの修道院では古くからビールが造られ、(液状のパン)として滋養のために院内でよく飲まれていた。アンデックスも例にもれず、伝統の醸造法が継承されており、修道院の名声はもとよりビールの醸造元としても広く知られていた。鷗外たち若き大学生は、どちらかといえばこの方が目当てでアンデックスを訪れたに違いない。

ない。聖遺物の見学もそこに、さつそく彼らは「醸房」に繰り出し、評判のビールを心ゆくまで味わったのだ。ちなみに、このアンデックス・ビールは大きな商標としていまやバイエルンの各地で市販されている。

さらに鷗外は、醸造所の長「ヤアコップ」について触れている。太っちょでのるまなきまはまるで豚のようだと、散々なこき下ろし方である。豊かな修道院の僧が悪癖に染まり、酒食に傾いてしまうことはよくあった。この肥えた僧もまた例にもれず、(液状のパン)を過剰に摂取したに違いない。見るとビールを給仕する者たちもみな「緋衣」、つまり黒衣を着た僧である。(祈り、かつ働け)という勤勉なベネディクト派の修道僧が、聞いてあきれられる光景ではないか。腹を抱えて「絶倒」する鷗外の笑いも、この辺りに起因しているのだろう。

それにつられてか、鷗外たちもしたたかに飲んで、しまいはもはや彼我の差はなく「皆酔ふ」のだった。鷗外の日記には、この陶然たる雰囲気重点が置かれ、それが無上の快として受け止められている。だとすればこの記述は、単なる酒場の一光景として理解されるべきものではない。敬虔なる巡礼と愉快な行楽、荘厳な教会と酔客が騒ぐ酒房、祈禱の声と学生たちの「狂歌」――日記ではこれらの聖と俗が、あるときは交錯し、あるときは矛盾なく両立する。すなわち鷗外の筆致は、両者が際立ちながらも混在するバイエルンという土地の魅力にまで及んでおり、それにすっきり身をゆだねている自分の愉悦を語っているのである。この場において鷗外は、森家の当主という立場や、エリート軍医官という職務はどうに忘れていたのだろうか。「興を尽して帰る」鷗外は、(cappellen)今日の花を摘め)という格言どおり、貴重な若き一日を底まで味わい尽くしたのである。



丘の上に立つアンデックス修道院  
ID:24795321 © Markus Gann | Dreamstime.com

## 開催中の展覧会

### コレクシオン展 舞姫―恋する近代小説

9月25日まで開催の本展は、「恋愛」をキーワードに近代小説の誕生と開花を二部構成で追っています。7月1日〜8月8日に開催したパート1では、明治20年代前後の作品から見られるようになった、登場人物たちの心境や内面の描写について紹介。当時の新しい価値観であった「恋愛」の表象に迫りました。8月10日から開催中のパート2では、明治30年以降に発表された悲恋小説と、二人を引き裂く要因、そこに見られる社会的背景を紹介しています。

撮影：コウ写真工房

背景を紹介しています。



### カフェ便り

モリキネカフェでは、展覧会に関連した特別メニューをご提供しています。春の特別展「私がわたしであること―森家の女性たち」では、鷗外の妹・小金井喜美子が随筆に記しているくすもち、長女・森茉莉が好んだ杏子のタルトレットやコーラを、期間限定で販売しました。

コレクシオン展「舞姫―恋する近代小説」特別メニューは、文京区内の洋菓子店・ボン・ヴィヴァンにご協力いただいて、恋するラスベリーケーキを販売しました。甘酸っぱいラスベリージャムに上品なバタークリームが合わさって、コーヒーによく合



10月1日から開催の特別展「文して恋しく懐かしき君に」でも、「即興詩人」の舞台・イタリアにちなんだオリジナルのお菓子をご提供します！カフェのみのご利用も可能ですので、是非お越しください。

また、8月1日〜9月11日の期間は、学校法人跡見学園所蔵の『舞姫』鷗外自筆原稿と、大阪樟蔭女子大学所蔵の『文づかひ』鷗外自筆原稿を展示。8月1日夜には内覧会を開催し、関連講演会にもご登壇いただいた本展監修者の山崎一頼氏に、両原稿の意義について解説いただきました。ドイツ3部作中の2作が並ぶ、史上初の機会となりました。

会期●2016年  
7月1日(金)〜9月25日(日)  
会場●文京区立森鷗外記念館 展示室2  
開館時間●10時〜18時(最終入館は17時30分)  
※毎週金曜日は20時まで開館  
(最終入館は19時30分)  
観覧料●一般300円(20名以上の団体・240円)



## 地域情報

文京区内には多くの文化施設があり、施設同士でさまざまな連携事業を行っています。森鷗外記念館では、区内の複数施設と相互割引を展開！まち歩きや文化施設巡りに、お得な割引情報をご活用ください！

### 文京ふるさと歴史館

文京ふるさと歴史館では、文京区の歴史や文化、郷土資料を紹介しています。資料展示や解説パネル、映像コーナーに加えて、体験型展示や、さまざまなクイズコンテンツなども楽しめます。土・日の午後には、解説経験の豊富な常設展示ボランティアガイドによるご案内もあります。

10月22日から12月4日までは、特別展「文京むかしむかし黎明篇―うみ・やま・ひとの物語―」が開催されます。東京都指定史跡・動坂貝塚をはじめとする文京区内の遺跡の調査成果と、文京ゆかりの考古学者、人類学者の人々の足跡が展示されます。

◆森鷗外記念館  
↓文京ふるさと歴史館  
半券または入館料3割引  
内 提示で入館料3割引  
◆文京ふるさと歴史館  
↓森鷗外記念館  
半券または入館料3割引  
※森鷗外記念館に押印があるものまたは友の会会員証提示で入館料2割引

### 鳩山会館

明治24年に鳩山和夫が文京区音羽に居を構え、後の内閣総理大臣である鳩山一郎が大正13年に同地に洋館を建築しました。イギリス風の外観、応接間でありながら和風の雰囲気もあり、当時としては珍しい鉄筋コンクリートでできています。この洋館の応接室で、自由党(現・自由民主党)の創設が計られるなど、政治の重要な舞台となりました。

鳩山威一郎没後の平成7年から修復工事を行い、平成8年5月に鳩山会館として開館。庭園では、一郎が愛した77種150株におよぶバラを、シーズン毎に楽しめます。秋のバラは、10月中旬に咲き始め、10月下旬〜11月中旬に見頃を迎えます。

◆森鷗外記念館 ↓ 鳩山会館  
半券(押印から半年以内)または鷗外パス(有効期限内)提示で入館料100円引き  
◆鳩山会館 ↓ 森鷗外記念館  
半券押印から半年以内提示で入館料2割引



東京都文京区本郷4-9-29 TEL: 03-3818-7221  
開館時間●10時〜17時  
休 館 日●毎週月曜日、第4火曜日(祝日の場合は、その翌日)/定期休館期間、年末年始  
入 館 料●一般100円/中学生以下・65歳以上 無料  
※2016年度の特別展開催期間中は一般300円



東京都文京区音羽1-7-1 TEL: 03-5976-2800  
開館時間●10時〜16時  
休 館 日●毎週月曜日(祝日の場合は、その翌日) 1〜2月、8月の3ヶ月間  
入 館 料●一般600円/65歳以上500円  
障がい者・学生400円/小中学生300円

特別展

文して恋しく懐かしき君に

—— 鷗外、『即興詩人』の10年 ——



『即興詩人』は、デンマークの作家・アンデルセン原作の自伝的小説です。鷗外は、この作品の翻訳に、約9年の歳月をかけた。雑誌での連載が始まったときから文壇の注目を集め、『即興詩人』は鷗外の翻訳作品中、最も有名なものとなりました。

『即興詩人』は、デンマークの作家・アンデルセン原作の自伝的小説です。鷗外は、この作品の翻訳に、約9年の歳月をかけた。雑誌での連載が始まったときから文壇の注目を集め、『即興詩人』は鷗外の翻訳作品中、最も有名なものとなりました。

『即興詩人』は、デンマークの作家・アンデルセン原作の自伝的小説です。鷗外は、この作品の翻訳に、約9年の歳月をかけた。雑誌での連載が始まったときから文壇の注目を集め、『即興詩人』は鷗外の翻訳作品中、最も有名なものとなりました。

即興詩人は、鷗外森林太郎氏の最近十年間の一面の事業なり

展覧会では、『即興詩人』の連載開始から単行本発行までの10年間(明治25年〜35年)に着目します。医学界・文学界で論争を展開する活みなぎる時期から、小倉赴任など待機の時代を経て、変化・成長する鷗外を『即興詩人』の連載発表とともに辿ります。

恋せよ、汝の心の猶少く、汝の血の猶熱き間に。

主人公アントニオと歌姫アナンチャタとの悲恋を軸とした物語には、鷗外の青春が詰め込まれているといわれます。鷗外にとって『即興詩人』の翻訳作業は、半生のロマンを閉じ込め、新たな自分を探す旅だったのかもしれない。

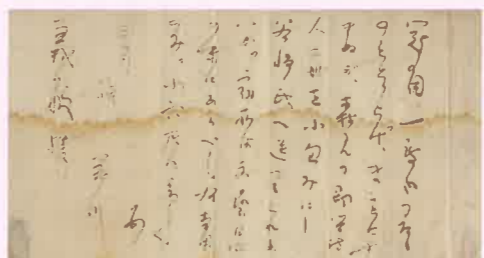
旅する画家として知られる安野光雅の『繪本 即興詩人』とともに、青春に想いを馳せる鷗外の心の旅をご覧ください。



安野光雅『繪本 即興詩人』より「ローマは不滅」(写真上)、「ヴェネチアの謝肉祭」(写真下) ©空想工房 津和野町立安野光雅美術館所蔵



鷗外筆宛葉書簡 東京大学総合図書館所蔵



芥川龍之介筆鷗外宛葉書簡 昭和2年3月1日 日本近代文学館所蔵



観潮楼日記 森鷗外記念館(津和野町)所蔵

会期●2016年

10月1日(土) - 12月4日(日)

会期中の休館日: 10月25日(火)・11月22日(火)

会場●文京区立森鷗外記念館 展示室

開館時間●10時〜18時(最終入館は17時30分)

観覧料●一般600円(20名以上の団体: 480円)

※中学生以下無料、障がい者手帳ご提示の方と同様者1名まで無料 ※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット(押印入)、友の会会員証ご提示で2割引 ※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

協力●津和野町立安野光雅美術館

東京大学総合図書館

公益財団法人日本近代文学館

森鷗外記念館(津和野町)

関連事業のお知らせ

展覧会期間中に関連講演会を予定しております。申込方法は7頁をご覧ください。

「熟成される(ゆめみるひと)」

—— 森鷗外『即興詩人』翻訳の10年 ——

講師 須田喜代次氏(夫妻女子大学教授)

日時 10月23日(日) 14時〜15時30分

会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室

定員 50名(事前申込制)

料金 無料

申込締切 10月11日(火)必着

「鷗外訳『即興詩人』の影響力」

講師 小林幸夫氏(上智大学教授)

日時 11月5日(土) 14時〜15時30分

会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室

定員 50名(事前申込制)

料金 無料

申込締切 10月21日(金)必着

ギャラリートーク

展示室にて当館学芸員が展示解説を行います。

10月12日、26日、11月9日、30日

いずれも水曜日14時〜(30分程度)

申込不要(展示観覧券が必要です)

展示会場から

① 上田敏筆 森於菟宛葉書

明治41年3月22日付

[S07042]



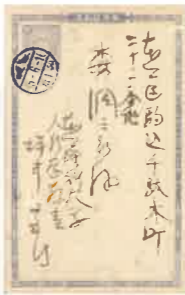
ナボリのけしきよき事かねての想像以上に候カプリの洞まおもしろしこのあたりすべて『即興詩人』を読む如くに候 上田敏 三月廿二日



② 坪井正五郎筆 森潤三郎宛葉書

明治35年6月16日消印

[S07300]



今朝は御出での処不在で失礼致しました。会の印は先日よりも或はの方が宜からうかとも思いますが(下の方が) 最好と考へます。板にするなら 好く清書して下さいませ。



上田敏は、東京帝国大学英文科在学中の明治27年、雑誌『帝国文学』発刊において発起人の一人に名を連ね、以後毎号のように同誌に寄稿します。敏は明治29年4月発行の『帝国文学』2巻4号において、「西班牙通の好一対」という記事を無記名で発表。これは、前月に鷗外が雑誌「めざまし草」で発表した「西班牙通文学」に対抗するもので、同記事に記載された鷗外によるスペイン語の発音(ヨミ)が誤りであると指摘したものでした。鷗外はこの指摘にすぐさま反論、論争を展開します。

森潤三郎と坪井正五郎

上田敏は外遊から帰国後、京都帝国大学教授に就任。在任中の明治42年12月に、敏の世話で、鷗外の末弟・潤三郎が京都府立図書館に赴任します。潤三郎は明治38年に東京専門学校(現・早稲田大学)史学科を卒業しており、図書館在任中には、古社寺や旧家に保存された古典の蒐集や、『京都叢書』の編集を務め、歴史考証に関する著作の執筆に励みました。

大正6年10月に帰京した潤三郎は、京都で芽生えた江戸文化への関心を持ち続け、また同時に、坪井正五郎や内田魯庵、渡辺刀水ら集古会会員とも関わり続けました。集古会は、坪井が創立した東京人類学会から派生したもので、くだけた雰囲気で見交換することを目的とした会合です。潤三郎は、学生時代から坪井の講義を受け考古学にも関心を持ち、この集古会の会員となっていました。坪井から潤三郎に送られた葉書では、「青蛙会なるもののシンボルマークについて、いくつかのデザインを提案しています。」

ボランティア活動ノート

8月15日、解説ボランティアによる、鷗外についてより深く学ぶための勉強会が行われました。今年度の勉強会は、倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事)を講師に迎えた読書会です。第1回目の題材には、鷗外作品の中でもユーモラスで読みやすい短編小説『大発見』を選びました。



まず倉本氏は、この作品が好きか嫌いかという質問を解説ボランティアに投げかけました。そして作品の好きなところや、気になった点について互いに意見交換し、作品の理解を深めていきました。この勉強会が、今後どのように解説に生かされていくのかは、実際に聞きに来られてからのお楽しみです。勉強会に参加した解説ボランティアからは、「数年ぶりに改めて読み直して、初めて読んだときと印象が変わった」という意見がありました。また数年後、同じ題材で読書会を行うのも面白いかもしれません。

① 特別展「文して恋しく懐かしき君に——鷗外、『即興詩人』の10年——」に出展。常設コーナーにて開催のミニ企画「坪井正五郎と森潤三郎」に出展。文京ふるさと歴史館特別展「文京おかしむかし黎明篇」(うみ・やま・ひとの物語) (3頁参照)と連携し、人類学者・坪井正五郎と森潤三郎に関する資料を展示します。 ※展示期間は、いずれも2016年10月1日〜12月4日です。

# コラム 異文化との出会いから——北海道・有島記念館

伊藤大介（有島記念館主任学芸員）

森鷗外と有島武郎、そして有島記念館の紹介を大半という事で紙幅をいただきましたが、何を取っ掛かりに書き出せばよいものか。二人の美術評論家としての顔が、大逆事件に対する二人の反応が、二人の従軍経験か。そうそう、二人には海外留学経験がありました。近年、社会や経済などあらゆる分野のグローバル化の進展とは逆に、海外留学を希望する学生が減少している。最近の報道で耳にしました。若者の内向き志向が大きな要因のようです。鷗外や武郎が海外に旅立った明治期とはいわず、数十年前までは、ごく限られた人間にしか留学が許されていませんでした。その状況から比べると、留学の機会は格段に広がっています。若い学生さんには、ぜひ海外に飛び出して自己と異文化理解のきっかけにしたいものだと思います。そのようなことを思いながら、鷗外と、主に有島の海外留学経験について触れてみることにします。

一方、有島は明治三十六年八月、アメリカに留学するために横浜を旅立ちました。鷗外の留学は、海外の優れた制度などの移入を目的に国から派遣を命ぜられた官費留学生でしたが、有島のそれはキリスト教徒としての自己完成を目的とする私的なものでした。有島の留学は、信仰の崩壊という矛盾した結果につながりましたが、国家や社会の矛盾に目を向けるきっかけともなり、さらに有島のその後の作品や人生にも深い影響を与えています。また留学によって得られた思想の一端は、有島記念館があるニセコの地で実践に移されました。

父の農場所有の動機には、明治十九年、農業を志して札幌農学校に編入学した有島の存在がありました。有島はこの事業の着手を受け、父への感謝とこの土地が生産の基盤となるという思いを書き残しています。留学から帰国した有島は、明治四十一年、東北帝国大学農科大学（現・北海道大学）官となり、再び札幌に居住します。この時、農場が有島武郎名義に変更され、父から農場の管理も任せられました。それを裏付けるように、当館が所蔵している農場の帳簿類には、有島が点検の証としたサインが記されています。

しかし、父が子のためにと開墾・投資を進め、有島も当初は喜んだ農場所有は、この頃には、自らの恵まれた境遇が農場小作人の貧困の上に成り立っているということから、苦悩へと変化していった。この変化の背景には、留学先のアメリカで社会主義者・金子喜一と交友した影響があり、金子を通して社会主義思想や「相互扶助論」を著した無政府主義者・クロボトキンを知り、社会問題に大きく目を向ける契機となったことがあります。



アメリカ留学時の有島武郎 有島記念館所蔵

大正五年、妻と父を相次いで亡くしたことから、翌年には大学を辞して作家活動を開始します。有島はその要因を自身の境遇にあると考え、財産放棄などの生活改造を実行します。これは、留学によって形成された思想を実践の段階に移したものでした。この実践で最も大きな仕事は、大正十一年の有島農場の解放でした。この解放が画期的なのは、単に土地を小作人に無償で譲り渡すのではなく、相互扶助の精神によって小作人が農場の土地所有と経営を共同で行う自治組織の設立を前提に行われた点にあります。有島は解放の翌年に自死しますが、大正十三年、各方面の尽力によって狩太共済農園が発足し、相互扶助の思想のもと営農されました。しかし、第二次大戦後の農地改革を受けて昭和二十四年に解団し、土地は団員各々の私有地となりました。

解団の前年に発足した有島謝恩会は、有島が遺した「相互扶助」の精神を継承するた

め、旧農団事務所内に有島記念館(初代)を開設して、資料の公開を始めます。その後、建物の焼失や再建を経て、昭和五十三年、ニセコ町により現在の有島記念館(二代目)が建設され、今日に至ります。

当館常設展示室では、二部構成で前半では有島の生涯を、後半では有島農場の歩みについて紹介しています。特別展示室では、若手美術家を紹介する展覧会を多く開催しています。そこでは発表の場が限られた若手芸術家を企画展形式で紹介することで、有島の芸術振興や相互扶助の精神を事業として具現化しています。館の設立経緯から、有島の文学資料の所蔵はまだ少数ですが、有島の精神と理想とを後世に受け継ぐべく活動しています。ご来館をお待ちしております。



有島記念館 北海道虻田郡ニセコ町字有島57  
TEL 0136-44-3245  
休館日●毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、その翌日)  
※ただし、夏季は無休になる場合があります  
年未年始  
入館料●一般500円/高校生100円

## これからの催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせ下さい。

- ★有料のプログラム参加者はイベント当日にかきり、展覧会観覧料が免除となります。
- ★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

10月9日(日) 14:00～16:00 文の京ワークショップ・東大俳句会コラボ企画 「来たれ俳句女子!俳句男子!チーム de 俳句連作」 講師:佐藤文香氏(俳人)、青木ともじ氏(東大俳句会) 会場:講座室 申込み時に学年をお知らせください 料金:無料 定員:20名(中学生~大学生対象) 申込締切:9月23日(金)	10月10日(月・祝) 14:00～15:00 鷗外をめぐる散策 津和野散策講座◎ 講師:倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事)ほか 会場:講座室 料金:無料(ただし展示観覧券が必要) 定員:50名 申込締切:当日10時より先着順受付
10月15日(土) 14:00～15:30 新・観潮楼歌会 「詩人の即興打ち明け話」 講師:谷部雄氏(詩人)、文月悠光氏(詩人) 会場:講座室 料金:800円 定員:50名 申込締切:9月30日(金)	10月22日(土) 14:00～15:30 新・観潮楼歌会 「鷗外とフランスの絆」 講師:野崎歌氏(仏文学者・東京大学教授) 会場:講座室 料金:800円 定員:50名 申込締切:10月7日(金)
10月23日(日) 14:00～15:30 展示関連講演会 「熟成される〈ゆめみるひと〉 —森鷗外『即興詩人』翻訳の10年—」 講師:須田喜代次氏(大妻女子大学教授) 会場:講座室 料金:無料 定員:50名 申込締切:10月11日(火)	11月1日(火) 10:00～17:30 開館記念日◎ 当日展覧会を観覧された方全員にオリジナルポストカードをプレゼント!
10月29日(土) 14:00～16:00 ※雨天の場合は10月30日(日)に順延 文の京ワークショップ・親子向け推奨「三人冗語なりきり撮影会」◎ 撮影:加藤健氏(写真家) 会場:庭園 料金:大人600円/中学生以下300円(1名に1枚紙焼写真付) ※詳細はHPをご覧ください。 定員:8組(1組6名以内) 申込締切:当日10時より先着受付	11月5日(土) 14:00～15:30 展示関連講演会 「鷗外訳『即興詩人』の影響」 講師:小林幸夫氏(上智大学教授) 会場:講座室 料金:無料 定員:50名 申込締切:10月21日(金)
11月13日(日) 14:00～16:00 文の京ワークショップ・親子向け推奨 「ことばのワークショップ—詩を書いてみよう」 講師:文月悠光氏(詩人) 会場:講座室 料金:大人800円/中学生以下500円 定員:15名 申込締切:10月28日(金)	11月23日(水・祝) 14:00～15:30 朗読会「即興詩人を読む」 朗読:高橋ひろし氏(文学座) 会場:講座室 料金:1000円 定員:50名 申込締切:11月8日(火)
12月10日(土) 12:30～16:00 鷗外をめぐる散策「晩秋の東叡山(上野から入谷へ下る)」 ナビゲーター:倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場:上野界限 料金:1000円(交通費・保険料込) 定員:15名 申込締切:11月25日(金)	

### ◆◆上記イベントの申込方法◆◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで、親子プログラムおよび親子向け推奨のプログラムに関しては親子一組につき1通)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

- ①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号・参加者が中学生以下の場合は学年を、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
- ②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号・参加者が中学生以下の場合は学年を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

【ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。】

## 活動報告

### 鷗外忌念対談「森茉莉という自由」

7月17日、森茉莉の担当編集者であった小島千加子氏(写真右)と、中世文学が専門で、吉田健一、森茉莉も研究されている島内裕子氏(放送大学教授)に、対談いただきました。

まずは、森茉莉をよく知る小島氏から、初対面の時に他の作家とは全く異なる印象を受けたこと、「鷗外的ななにか」がそばにあることが最も大切であったこと、時間を超越した彼女らしいエピソードなど、森茉莉の人となり語られました。

そして、雑誌の切り抜きなどから物語をつむいでいくという独特の創作プロセスや、活字になった時の美しさをも重視して文字(漢字)を選んでいったことなど、茉莉の文学世界についても紹介されました。島内氏からは、「幼い日々『貧乏神』などの随筆に鴨長明『方丈記』の系譜を感じる」と、批判精神やユーモアを交えて日々の様々を描く力量は、『枕草子』の清少納言以来の千年に一人の文学者であり、今後も読み継がれていくであろう作家であるなど、古典と現代をつなぐ視点を持つ氏ならではのお話がありました。

お二人の話から、「自分が自分であること」を貫くことで自由を獲得した、森茉莉という作家がくつきりと浮かびあがってきた1時間半でした。

### 「喫茶リントロー」と

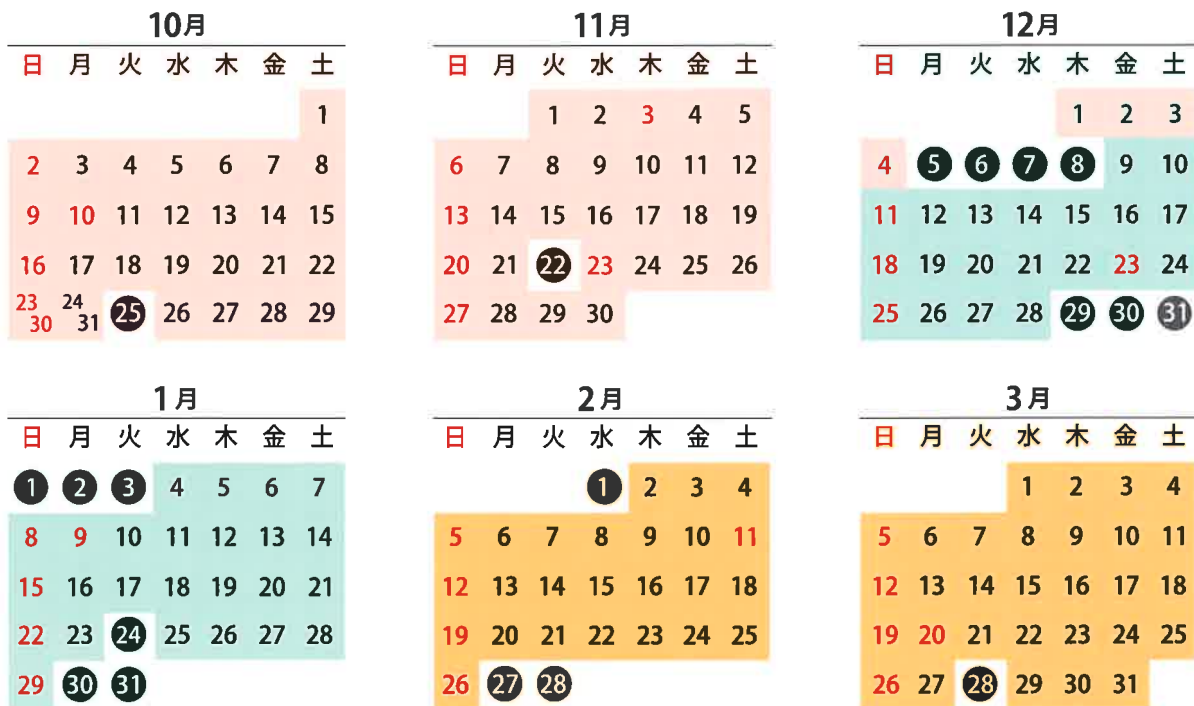
#### 新・観潮楼歌会トークショー「コーヒーのある風景」

コーヒーのある風景を作り出す、アーティストユニット「PACK(エルパック)」が7月23日にモリネカフェをジャック!一日だけの限定カフェ「喫茶リントロー」を開店させました。机や本棚、書籍など、彼らが鷗外をイメージして選んだアイテムで構成された店内で森鷗外に捧ぐ「コーヒー」というコンセプトで焙煎した、「OGAI」JINTARO)をトング、アーモンドミルクコーヒーを提供しました。PACKが創り上げた「喫茶リントロー」は、一日中かぐわしいコーヒーの香りと楽しそうな会話や活気が満ちていました。

閉店後は「PACKのお二人と、日本近代文学館のカフェ「BUNDAN」をプロデュースする東京ビストルの草彌洋平氏(写真左)とのトークショー「コーヒーのある風景」を行いました。参加者はPACKが淹れた「コーヒー」と共「PACK」と文学愛あふれる草彌氏とのトークを楽しみました。人と人、人と場を繋ぐカフェのポテンシャル、そしてモリネカフェの可能性を実感した一日でした。



# 2016年度後期 文京区立森鷗外記念館 開館カレンダー



特別展「文して恋しく懐かしき君に一鷗外、『即興詩人』の10年—」  
10月1日(土)～12月4日(日)

コレクション展「賀古鶴所展」(仮称)  
12月9日(金)～1月29日(日)

コレクション展「鷗外終焉」(仮称)  
2月2日(木)～3月31日(金)

● 休館日

## 編集後記

毎年厳しい暑さがこたえる日本の夏ですが、リオデジャネイロオリンピックや全国高校野球選手権大会など、今年はスポーツで日本中が熱くなった夏でもありました。その熱が落ち着き始めた8月後半には、夏休みの宿題のために来館される親子連れや、学生のみなさんの姿が多く見受けられました。

そんな10代～20代の方の文学館訪問を後押ししているのが、森鷗外はじめ中島敦や芥川龍之介など、文豪の名前のついた登場人物が活躍する人気漫画『文豪ストレイドッグス』(朝霧カフカ原作・春河35漫画/KADOKAWA)、通称『文スト』です。神奈川近代文学館など、各地の文学館とのコラボレーションが話題となり、『文スト』をきっかけに文学館に足を運んだり、モデルとなった文豪の作品を読む方が増えているようです。



©2016 朝霧カフカ・春河35 発行：株式会社KADOKAWA

森鷗外記念館でも、10月4日(日)から12月17日(月)まで、同作品とのコラボレーションを行います。イラスト展示や、観覧者へのプレゼントなどを行う予定です。また、田端文士村記念館との連携事業も展開。『文スト』を知らないという方も、是非この機会にご覧になってください。



### ●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分

### ●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
  - ・都バス 上58番系統「回子坂下」下車 徒歩5分
  - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511  
URL: <http://moriogai-kinenkan.jp>

## 交通案内

開館時間 10:00～18:00 (最終入館は17:30)  
6月～9月の毎週金曜日は20:00まで開館 (最終入館は19:30)

休館日 毎月第4次曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、  
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等

文京区立  
**森鷗外記念館**  
Mori Ogai Memorial Museum